

2022

公益財団法人お金をまわそう基金

Annual Report





お金をまわそう。 人々の想いをのせて。

2022年 11月30 日、皆さまのあたたかいご支援のお陰で、公益財団法人お金をまわそう基金は無事に第7期を終えることができました。本当にありがとうございました。

「実り」と「芽生え」をイメージした当アニュアルレポートに、昨年度の活動の様子をまとめましたので是非ご覧いただけますと幸いです。

2023年度もお金をまわしてより良い社会を作っていけるよう、スタッフ一同いっそう邁進してまいります。今後とも、よろしくお願いいたします。

お金をまわそう基金は
社会課題の解決をめざす団体と寄付者をつなぐ、
えんづくりのプラットフォームです

助成先団体を責任をもって選びます
助成先団体の活動を広め、共感とともに寄付を募ります
お預かりした寄付は100%助成先団体に届けます

Contents

- 03 ごあいさつ
- 05 第7期助成事業のご報告
- 06 助成先団体のご紹介

■子ども分野

- 07 特定非営利活動法人タイガーマスク基金
一般社団法人星つむぎの村
- 08 公益財団法人がんの子どもを守る会
特定非営利活動法人クリエイト
- 09 特定非営利活動法人みかんぐみ
特定非営利活動法人秋川流域生活支援ネットワーク
- 10 特定非営利活動法人福岡教育サポート
公益財団法人あいである
- 11 特定非営利活動法人しぶたね
特定非営利活動法人スヌーズレンを普及する会
- 12 特定非営利活動法人ネモチば不登校・ひきこもりネットワーク
特定非営利活動法人ハイティーンズサポートちば
- 13 特定非営利活動法人子育てサロンすくすく
一般社団法人地域活性化いじめ撲滅実行委員会
- 14 特定非営利活動法人アスリード
一般社団法人天理文化の会
- 15 特定非営利活動法人Gumi
特定非営利活動法人ならはらの森なかの学舎
- 16 特定非営利活動法人SoELa

■文化・伝統技術分野

- 16 公益財団法人山本能楽堂
- 17 一般財団法人日本京劇振興協会

■地域社会分野

- 17 特定非営利活動法人ウルシネクスト
- 18 特定非営利活動法人ハーベスト
特定非営利活動法人ソソリッサ
- 19 特定非営利活動法人アヴニールファーム
特定非営利活動法人釧路・根室権利擁護支援センター
- 20 特定非営利活動法人びくにつく

■スポーツ分野

- 20 一般社団法人ATHLETE SAVE JAPAN
- 21 特定非営利活動法人D-SHIP32

- 22 お金をまわそう基金×休眠預金等活用事業
実行団体のご紹介

■子ども分野

- 22 特定非営利活動法人Lino
- 23 公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を
公益社団法人ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO

- 24 お金をまわそう基金 活動紹介

- 25 助成先団体の活動報告
- 26 助成先団体とのセミナー・助成先団体交流会

- 27 決算報告

- 29 スタッフあいさつ

- 30 寄付の取り扱いについて

「おたがいさま」、
「おかげさま」でお金がまわる
心優しい社会を次の世代へ残したい



ごあいさつ

おかげ様で、第7期は「お金をまわそう基金」にとって、大きな転換点となりました。

その第1は、助成先の広がりです。第7期は助成先が30団体となりましたが、うち15団体は新規の助成先です。

助成申請だけを見ますと、100件を超えるお問い合わせをいただきました。当基金の活動が、それだけ社会に必要とされているのを実感した次第です。

その第2は、理事の新任です。公益社団法人日本フィランソロピー協会の理事長である高橋陽子氏を、新たに理事としてお迎えしました。高橋さんは30年以上にわたって、日本におけるフィランソロピー活動の啓蒙と推進に尽力してきました。一人ひとりの行動が、より良い社会をつくっていくのだとする根本的な考え方が同じな高橋さんに参画してもらえたことで、当基金の執行体制が一気に強化されました。



そこで、第8期ですが、おそらく助成先はますます増えるでしょうが、基金の目指すところは変わりません。

当基金は世の中の不条理や不平等に対し、社会の片隅で真っ正面から取り組んでいる人たちを発掘し、世に広くご紹介していきます。

頑張っている人たちの取り組みに共感した人は、自分が活動を手伝うことができない代わりに、自分のお金に働いてもらいましょう。当基金への寄付を通して、自分が心から支援したいと思う活動に参加することができます。

それが、より良い世の中づくりにつながっていくのです。お金を介して、そういった意思や思いを届けることで、活動している人たちとの間に、お金を超えた「つながり」ができていきます。

このように、「お互いさま」や「おかげさま」の気持ちでまわる、お金の循環をどんどん高めていきたいものです。それでもって、心優しい社会を次の世代へ残していきたい。

それが「お金をまわそう基金」の目的なのです。

また、多くの人々が参加する寄付文化を広めていくことが、消費の拡大につながり、日本経済の活性化に大きく貢献します。

気付いた人、できる人から、お金をカッコ好くつかっていく。

そういった文化が、いまこそ必要なのです。

公益財団法人お金をまわそう基金

代表理事



第7期助成事業のご報告

私たちは、みなさまからお預かりした寄付金を、より良い社会を目指し活動する団体にお届けしています。第7期は30団体33事業に総額1,400万円の助成金を届けることができました。これは、ひとえにご支援いただいたみなさまのおかげです。心より御礼申し上げます。

	第3期(2018年度)	第4期(2019年度)	第5期(2020年度)	第6期(2021年度)	第7期(2022年度)
寄付者数(のべ)	557人	1,393人	1,456人	1,197人	1,343人
助成先団体数	7団体	11団体	19団体	19団体	30団体
助成事業数	7事業	11事業	20事業	20事業	33事業
助成額	577万円	1,556万円	2,815万円	1,594万円	1,400万円

※寄付者数は複数回寄付している方や法人を含みます。※事業期間は12月1日から11月30日です。※当財団運営費への寄付は除きます。

●助成額内訳

助成先団体名	事業概要	助成額(円)
■休眠預金等活用事業		
特定非営利活動法人Lino	医療的ケア児とその家族の旅行体験や映画上映会	3,142,140
■通常事業		
特定非営利活動法人タイガーマスク基金	児童養護施設出身の学生への大学進学支援金給付	3,479,040
一般社団法人星つむぎの村	病児や障害児に届ける「フライングプラネタリウム」	568,837
特定非営利活動法人クリエイト	不登校児等のためのフリースクールの運営	1,000,000
公益財団法人がんの子どもを守る会	小児がん患児とその家族のための相談事業	97,175
特定非営利活動法人みかんぐみ	医療的ケア児を持つ家族へのピアサポート	316,123
特定非営利活動法人秋川流域生活支援ネットワーク	重症心身障害児のための放課後等デイケア運営	256,123
特定非営利活動法人福岡教育サポート	貧困世帯の子どもたちのための無料塾運営	305,123
公益財団法人あいである	児童養護施設の子どもたちへの自立に向けた金融教育	204,123
特定非営利活動法人しぶたね	「きょうだい支援」を担う人を増やす研修の実施	497,123
特定非営利活動法人スヌーズレンを普及する会	重度障がい児支援事業所へのスヌーズレン無料体験の提供	191,613
特定非営利活動法人ネモチば不登校・ひきこもりネットワーク	不登校・ひきこもりの子どもたちのためのフリースクール	436,613
特定非営利活動法人ハイティーンズサポートちば	困難を抱える高校生のための校内居場所カフェ・食料無料配布	235,613
特定非営利活動法人子育てサロンすくすく	「孤育て」を防止し「親育ち」も支援する子育てサロン	358,645
一般社団法人天理文化の会	セーフティネットを広げる出張子ども食堂	135,425
特定非営利活動法人アスリード	社会人と中高生が語り合うキャリア教育プログラムの提供	197,420
一般社団法人地域活性化いじめ撲滅実行委員会	いじめに関する子どもたちからのSOSを受け付ける相談事業	94,920
特定非営利活動法人Gumi	不登校の子どもに対する居場所支援	76,420
特定非営利活動法人ならはらの森なかの学舎	子どもたちがありのまままで過ごせる居場所作り	360,000
特定非営利活動法人SoEla	地域の生態系を反映した環境教育ゲーム「マイアース」の開発	80,420
一般社団法人ATHLETE SAVE JAPAN	アスリートによるAEDの普及・利用促進	121,937
特定非営利活動法人D-SHIP532	障がいの有無に関わらず楽しめるバラスポーツイベントの実施	234,837
特定非営利活動法人ウルシネクスト	国内漆の生産量を増やし漆文化を次世代に繋ぐ漆づくり	722,476
特定非営利活動法人ハーベスト	ボランティア市民講師と中高生との対話によるキャリア教育	512,676
特定非営利活動法人釧路・根室権利擁護支援センター	日常生活に困難を抱える方のための権利擁護支援	35,196
特定非営利活動法人ソソリッサ	地域の高齢者の孤立防止のための健康講座実施	38,646
特定非営利活動法人アヴニールファーム	地域の子どもたちが引退競争馬と交流できる機会の提供	90,646
特定非営利活動法人ぴくにつく	地域の高齢者のフレイル予防のための健康づくり講座実施	21,010
公益財団法人山本能楽堂	新作能「オルフェウス」のシビウ国際演劇祭への配信参加	34,290
一般財団法人日本京劇振興協会	中国伝統芸能「京劇」の振興活動と福祉支援	153,255

※詳細は団体別のページをご覧ください。

お金をまわそう基金は、寄付金の適正な活用を最後まで責任をもって見届けます。

助成先団体のご紹介



助成する事業分野



児童または青少年の健全な育成を目的とする活動

子ども
分野

教育、スポーツを通じて豊かな人間性の育成を目的とする活動



スポーツ
分野

文化および芸術の振興を目的とする活動



文化・伝統
技術分野

地域社会の健全な発展を目的とする活動



地域社会
分野

児童養護施設出身の学生たちに 返済不要の支援金を届ける！



特定非営利活動法人 タイガーマスク基金

寄付募集期間：2021/12/1～2022/5/31
助成申請額：3,479,040円
助成金額：3,479,040円

私たちタイガーマスク基金は、様々な事情で親と離れて暮らす社会的養護の施設の子どものための「育ち」と「巣立ち」を支援しています。

日本は小学校から大学までの教育機関への公的支出が、GDP（国内総生産）に占める割合では2.8%と最下位レベルです。

※OECD(経済協力開発機構)発表

大学教育費だけでも、家計負担の割合が日本は5割を超え、親の収入によって進路が左右されていることがわかります。

「生まれ」や「育ち」など、子どもたちが選ぶことができない要因で未来を閉ざしてはならないと、タイガーマスク基金は児童養護施設や自立援助ホームなどで暮らす子どもたちの大学進学をサポートしています。皆さまからのご寄付は、働きながら大学に通う学生たちに「返済不要の支援金」として届け、授業料や教材費、実習や就職活動の交通費、資格取得の費用などに役立てられております。たくさんのご支援に心から御礼申し上げます。

私たちの未来を担う子どもたちが安心して暮らし、学べる社会創りのために、今後も努力して参りますので、ご一緒に見守っていただけましたら幸いです。

世の中には「信頼できる大人」がいて、会ったことはなくても、自分を応援してくれているということが、学生たちにとっては、大きな励みになっています。皆さまのお気持ちが届いた学生たちは、今度は、自分も誰かを支える社会人になることを目指し、日夜、努力を重ねています。本当にありがとうございました。

ぼくらはひとりじゃない

～困難を抱える子どもとともに見上げる星空～



星つむぎの村は、「すべての人に星空を」をテーマにさまざまな人のもとに星空を届けています。特に、難病児や障害児を対象とした「病院がプラネタリウム」に力を入れています。

新型コロナウイルス感染症の流行からまる3年。社会経済活動は徐々に戻りつつありますが、難病や障害を抱える子どもたちの閉塞状況は好転することなく、通学・外出、病院での面会など未だ難しい状況です。

ご家族と同じ星空を見上げることで「ひとりじゃない」というメッセージを子どもたちに伝えるため、病院・施設・個人宅などへ「フライングプラネタリウム」を無償でお届けしています。

2022年度はお子さんの年齢や興味関心に応じて、コンテンツを「選べる」ようにするため、複数のコンテンツ動画を制作しています。個人宅向けのフライングプラネタリウムを14回実施し、「オーロラ」や「花火」などをご覧いただくことができました。また、長編の探査機・ボイジャーを扱ったコンテンツも制作できました。

ご家庭でプラネタリウムをご覧になったご家族からは、「天井投影は息子の視線にピッタリ合い、本人も楽しそうに映像を見ていました。静かに星空を眺めるのはとても神聖な気持ちになり、私たちも宇宙の一員なのだなあと感じることができました」といった、喜びの声をたくさんいただきました。

いつもご支援いただき本当にありがとうございます。これからも、みなさんと一緒に星空を見上げていきたいと思っています。

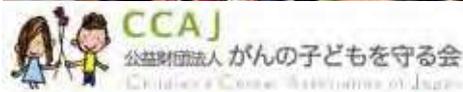


一般社団法人 星つむぎの村

寄付募集期間：2021/12/1～2022/4/30
助成申請額：373,800円
助成金額：373,800円

寄付募集期間：2022/5/1～2023/4/30
助成申請額：498,000円
助成金額：195,037円(2022/11/30現在)

小児がん患児やそのご家族を支える 相談事業



公益財団法人 がんの子どもを守る会



寄付募集期間：2022/5/1～2023/3/31

助成申請額：300,000円

助成金額：97,175円(2022/11/30現在)

小児がんは医学の進歩に伴って「不治の病」から「治る病気」になりつつあります。しかし、未だ病死順位の1位であること、たとえ治療を終えても小児がんの患児とその家族はさまざまな問題を抱えているのが実情です。

がんの子どもを守る会は、患児・家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく、多くの方々の支援のもとに活動をしています。1973年に専任のソーシャルワーカーによる相談事業を開始し、以来50年近くにわたり相談支援を行っています。小児がん患児・家族は長期にわたる入院生活を強いられることが多く、ご家族は多くの問題に直面します。そのようなご家族ははじめ不安や悩みを抱えている方に対し、治療中はもちろん、治療を終えた後も、また子どもが亡くなった後も継続的なサポートが必要とされており、そのご相談にソーシャルワーカーが個別にきめ細かく対応しています。またコロナ禍により患者家族が孤独を感じないようにサポートすることも重要と捉えています。

昨今の新型コロナウイルスの感染動向は、小児がん患児・家族に不安を抱かせるだけではなく、彼らに心を寄せていただいている方々の支援活動にも様々な制約を及ぼしております。こうした状況下にあつて、当会が小児がん患児・家族に対する支援事業を継続させていただいていることは、皆さまお一人お一人の温かいお気持ちのお蔭と深く感謝するとともに、引き続き当会の活動に対するご理解とご支援をお願い致します。

どんな子ども自分らしく、生き生きと 成長できるフリースクール



特定非営利活動法人 クリエイト



寄付募集期間：2021/12/1～2022/11/30

助成申請額：1,000,000円

助成金額：1,000,000円

私たちクリエイトは、フリースクール活動を通して、2006年より地域に多様な学びの選択肢を提供しています。現在、香川県のフリースクールはクリエイトを含めて2施設、子ども達の学びの選択肢はまだ限られています。

不登校は年々増加していますが、問題行動ではないという社会的な認識も高まってきました。クリエイトに通う子ども達も背景やニーズは様々ですが、それぞれに心や学習、生活習慣を回復して生き生きと過ごしています。

自分の成長を確認し、自信を持って発言することができるようになった子ども達の姿に、大人達も励まされています。その結果、数人の子はこの春より元の学校や次の進学に前向きな一歩を踏み出す決心をしました。

2022年度はスクールを毎日利用した児童生徒が10名でした。登校には至りませんでしたが、相談や見学、体験に来た子ども達や、放課後英語クラスやイベントなどに参加した60名以上に情報提供を行うことができました。

皆さまからのご寄付のおかげで、学習教材や体育用品、校外学習など、活動に必要なものが充実しました。また人件費にも助成金を充てさせていただき、若手スタッフの育成をすることができました。子ども達と日々向かい合う人材の育成ができたことは、今後の実りある活動のためにとっても有益でした。皆さまに多くのご支援をいただき、子ども達を元気にする場所として、地域に必要なフリースクールを続けられることを、心より感謝申し上げます。

ピアサポートで医療的ケア児や重心児の地域生活を支えたい！



特定非営利活動法人 みかんぐみ



寄付募集期間：2022/5/1～2023/3/31
助成申請額：532,000円
助成金額：316,123円(2022/11/30現在)

みかんぐみは、医療的ケアや重い障害のあるお子さんとご家族を応援するため、当事者の親たちの集まりとして2014年にスタートいたしました。親子がともに楽しめるイベントの実施や、経験を活かした書籍の発行など活動の幅を広げ、2018年にNPO法人格を取得いたしました。

2020年以来皆様にご支援いただいている事業「ピアサポート事業」は、退院して間もない医療的ケア児や重度な障害児の保護者に対し、区内ですでに地域生活を体験している保護者（みかんぐみスタッフ＝ピア）による交流会を開催し、地域生活の見通しが持てるような知識やノウハウを提供する杉並区からの委託事業です。

スタッフ自身の体験が他の誰かの役に立ち、さらに「対価」を得られるという喜びと自信につながっていますが、委託事業ながら法人内で行う運営業務に係る費用が必要であり、皆様からのご寄付により継続することができています。温かいご支援の一つ一つが、地域にこれから溶け込んでいこうと奮闘する障害児とその家族を支えるのはもちろんのこと、新たな雇用も作り出していることに感謝申し上げます。

今期も目標金額を前倒しで達成することができました。スタッフのみならず、約50組在籍しているみかんぐみ会員一同よりお礼を申し上げます。先輩保護者（ピア）の前向きな様子は多くの方に伝播し、さらによいうねりを作っていくと私たち自身も気づかされています。引き続きこの事業を育てていきたいと思っております。

わいわいくらぶは「特定非営利活動法人秋川流域生活支援ネットワーク」において、秋川流域で唯一、重症心身障害児の放課後等デイサービスを行っている事業所です。

放課後等デイサービスとは、障害を持った学齢期の子どもが放課後や夏休みなどの長期休暇中に利用できる福祉サービスです。音楽活動や季節ごとの制作活動を楽しんだり、天気の良い日は外出をしたり、リハビリや体操などの時間があつたりと、子どもたち一人ひとりに合わせた療育とともに居場所づくりや家族支援を行っています。

わいわいくらぶの特徴は2015年の開所時から行っている入浴サービスです。入浴には人手が必要であり、特に体が大きい中高生を入浴させるのはかなりの重労働になります。障害を持った子どもの生活の多くがご家庭の負担によって成り立っているなかで、入浴サービスを受けられることはご家族にとって大きな負担軽減となります。

訪問看護などの福祉サービスがまだ十分に整っていない秋川地域において、わいわいくらぶでは家族支援の一環として継続しているのです。

ご支援くださる皆さまにはいつも感謝しております。ご家族のニーズに応えようと始めた入浴サービスですが、制度上含まれていないサービスであるため、その分の経費が賄えず毎年赤字が続いています。皆さまのご寄付が事業の支えです。

私たちのいちばんの評価「子どもたちの笑顔」のために、今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。

地域でともに生きるをともに実現する —放課後等デイサービス—



特定非営利活動法人 秋川流域生活支援ネットワーク



寄付募集期間：2022/5/1～2023/3/31
助成申請額：479,600円
助成金額：256,123円(2022/11/30現在)

貧困世帯の子どもたちに学力と進路を保障するための学習支援事業



特定非営利活動法人 福岡教育サポート

寄付募集期間：2022/5/1～2023/3/31

助成申請額：1,152,000円

助成金額：305,123円(2022/11/30現在)

福岡教育サポートは「貧困世帯の子どもたちに学力と進路の保障を！」をスローガンに、すべての子どもたちに教育と進路の機会均等をサポートする NPO 法人です。

日本における子どもの貧困率は13.9%（平成28年国民生活基礎調査の概況：厚生労働省）、約7人に1人の子どもが貧困となっています。一人親世帯など経済的に苦しい家庭の子どもは塾にも行けず、「経済格差＝教育格差」となっているのが実情です。

そこで、経済的理由で塾に行けない子どもたちに何か支援ができないかとの思いから、無償の学習塾「春日英数塾」を2016年にスタートさせました。おかげさまで、当初は1教室で講師2人、生徒3名で始めた事業も、現在では4教室で講師32人、児童・生徒21名まで増やすことができました。

当塾の特徴は1対1の完全個別指導で、講師が勉強だけでなく進路などの相談にものり、生徒ひとり一人にしっかりと寄り添い学力向上に取り組んでいる点です。今年は3月に当塾を卒業した生徒がボランティア講師となって戻ってきてくれました。このように、経済的な理由から希望の進路を断念しようとしている子どもたちへ支援の手を差し伸べ、少しでも夢の実現をサポートしたいという私たちの願いは、皆さまのご支援のおかげで少しずつ形となってきています。しかしながら、今年は経済状況の悪化などもあり、まだ目標金額が達成できていません。活動の存続のために引き続きのご支援を何卒よろしくお願い致します。

あいであるは「児童養護施設で養育されている子ども」の自立支援を行う公益財団法人です。

児童養護施設で養育されている子どもは、社会で生活を始めることへの準備も整わず、法律的、金銭的な後ろ盾もない中、18歳という年齢に達したというだけで自活を始めます。生活費やお金の管理、コミュニケーションの仕方など、社会人として必要なスキルが身に付いていないため、退所後の生活で金銭的なトラブルに巻き込まれるなど、苦労することが多くあります。

そこで、あいであるではオリジナルツール「マネークリップ」を開発し、児童養護施設職員及び児童養護施設で養育されている子どもを対象として、施設退所後のお金の管理や生活設計について、サイコロやカードを使いながら楽しくゲーム形式で体験できるレクチャーを行っています。

今回皆さまからお寄せいただいたご寄付で、この「マネークリップ」に使用するカードを追加制作いたしました。2022年4月より成年年齢が18歳に引き下げられ、携帯電話を契約する、一人暮らしの部屋を借りる、クレジットカードをつくる、高額な商品を購入した際にローンを組むといった時に、親や後見人の同意なしに契約ができるようになりました。成年年齢の引き下げにより懸念される金銭や契約に伴うトラブルについて警鐘を鳴らすカードを追加制作し、レクチャーの充実を図ることができました。あらためて皆さまからの温かいご支援に感謝申し上げます。

児童養護施設で暮らす子どもにお金の管理を体験してもらいたい！



公益財団法人
あいである

公益財団法人
あいである



寄付募集期間：2022/5/1～2023/3/31

助成申請額：366,520円

助成金額：204,123円(2022/11/30現在)

病気や障がいのある子どもの「きょうだい」の応援団を増やしてつながる研修事業



特定非営利活動法人 しぶたね

寄付募集期間：2022/5/1～2023/3/31
助成申請額：846,281円
助成金額：497,123円(2022/11/30現在)

しぶたねは、重い病気のある子どもの「きょうだい」のための団体です。2003年から、直接きょうだいたちに関わる活動と啓発活動を両輪で広げてきました。

難病の子どもは日本に25万人以上います。そんな子どもたちのきょうだいもまた、不安や寂しさ、プレッシャーなど複雑な気持ちを抱えて育ちます。ですが、「あなたは病気じゃないから大丈夫」「家族を支えるのは当たり前」と、「ケアの必要な子ども」という視点から抜け落ちてしまいがちです。周囲の大人が支援の必要性に気づいても、相談できる人や、つなぐ先がないという声を聞いてきました。

そこで、きょうだい支援の視点を持つ人を増やそうと、支援を始めるのに必要な知識やノウハウなどを伝える「シブリングサポーター研修ワークショップ」を2016年に始めました（31都道府県で計54回開催、1,700名の方が受講）。

みなさまのご寄付のおかげで、今年度も各地の支援団体や訪問看護ステーション、大学病院などさまざまな場で研修を開催できました。

研修を受講してくださる方の先には、たくさんのきょうだいがいます。1回の研修だけで終わらず、つながり続けることで、現場での支援に良い変化が起きたり、地域のネットワークができたり、新たにきょうだいのための場が生まれ、子どもたちの笑顔が広がっています。

この波をご一緒に広げてくださっていることに感謝の気持ちでいっぱいです。引き続き、どうぞよろしくお願いたします。

障がいのある子どもたちに特別な光の空間を届けたい



特定非営利活動法人スヌーズレンを普及する会



寄付募集期間：2022/5/1～2023/3/31
助成申請額：210,000円
助成金額：191,613円(2022/11/30現在)

NPO法人「スヌーズレンを普及する会」は障がい者が楽しく、生き甲斐のある生活を送れるように、ブラックライトを利用したスヌーズレンの普及活動を行っております。暗い中で幻想的に光るものに触れることで、障がいのある子どもたちが興味を持って主体的に楽しむことができます。

当法人では、スヌーズレンを体験してもらう為に、スヌーズレン用品の無料貸出事業を行っております。また、スヌーズレンという聞きなれない言葉を使わず、有名な絵本のブラックライトパネルシアターの制作、無料貸出を行ってスヌーズレンの理解を高めております。

これまで無料貸出の際は、往復の送料を負担して頂いていました。そのため、障がい者が喜ぶとわかっていても送料が負担できないために、以前は申し込みを断念する事業所が多々ありました。

そこでこの度、公益財団法人お金をまわそう基金の助成を活用し、送料も含めて無料で体験を提供できるように寄付を募集いたしました。

頂いた寄付により、今年度は2023年1月までにスヌーズレン体験で14件、ブラックライトパネルシアター体験で42件の貸出しがあり、児童福祉施設等の子どもたちに体験を届けることができています。体験後には感想文、アンケートを頂いており、その内容を見ますと障がい者のみならず、職員、家族も大変喜ばれた様子が伺えます。

私どもの団体は事業収益活動を行っておりませんので、皆様からのご寄付に大変感謝致しております。

不登校経験者やその家族がつくる 安心して過ごせるフリースクール



特定非営利活動法人 ネモちば不登校・ひきこもりネットワーク

寄付募集期間：2022/5/1～2023/3/31
 助成申請額：500,000円
 助成金額：436,613円(2022/11/30現在)

私たちは不登校やひきこもりの経験のある若者たちとその親たちが協力して2003年に立ち上げたNPO法人です。団体名につけられた「ネモ」とはラテン語で「だれでもないもの」という意味であり、「誰でなくても、君ならそれがいい」というまなざしを基本に、不登校・ひきこもりの当事者が自分らしく生きられるよう、ご本人やそのご家族を応援しています。フリースクールの運営を軸に相談や情報発信など様々な形で活動を行っており、辛そうな様子でフリースクールに入ってきた子どもたちでもやがて生き生きとした姿が見られるようになることを願いながら、子どもたちが安心して自由に過ごせる居場所作りを心掛けています。

民間のフリースクールは多くの自治体で経済的支援の対象となっておらず、私たちは会費や寄付金、民間の助成金によって活動ができています。苦しい経営が続く中で、それでも子どもたちが安心できる居場所であるフリースクールを継続していくために、お金をまわそう基金でも寄付をお願いすることとなりました。

今回の寄付募集ではSNSで呼びかけを行うたびにご支援くださる方がいらして、私たちの活動を見守ってくださっている方々の存在をひしひしと感じています。2021年度の不登校の児童・生徒の数は前年比で24%も増えています。みなさんのお気持ちを励みに、引き続き子どもたちのために努力してまいります。

困難を抱える高校生を支える 校内居場所カフェと食料無料配布会



私たちは、若者の健全な成長を目指し、高校内居場所カフェと食料配布会を行う団体です。

法人設立メンバーは夜間定時制高校教員です。現場で、十分な食事がとれず顔色の悪い生徒、虐待、ネグレクトを受けている生徒に多く接してきました。そのような時に、他県で高校内居場所カフェが機能していることを知り、千葉県でも行うべく、校内居場所カフェ運営を2022年度の活動の大きな柱としました。

千葉県内の高校で月1回居場所カフェを開き、合わせて食料無料配布会を行いました。また、5月にヤングケアラーの支援をテーマとする講演会、12月に若者支援をテーマとする映画会と製作者のトークショーを行いました。

高校生世代の抱える問題は見えにくく、居場所カフェを開き安心できる場を提供する中で、貧困、虐待、就労などの問題が出しやすくなり、状況に応じて専門機関につなげることもできるようになりました。教室では全く言葉を発しない生徒が、大学生ボランティアに悩みを打ち明けることもありました。また、食料配布会では、家に兄弟が7人いて、母が喜ぶからと2kgの米を5袋もリュックに詰め込んで帰る生徒もいました。毎回200人余りの生徒が利用し、家計が苦しく食料が不足する高校生世帯の多さを実感しています。

皆さまにはあたたかいご支援をいただき、ありがとうございました。私たちの事業は、継続していかなければ成果が出せませんので、引き続きご支援のほど、よろしくお祈りします。



特定非営利活動法人 ハイティーンズサポートちば

寄付募集期間：2022/5/1～2023/3/31
 助成申請額：1,800,000円
 助成金額：235,613円(2022/11/30現在)

核家族で育った子育て世代に届ける 「孤育て」させない「親育ち」支援



特定非営利活動法人 子育てサロンすくすく



寄付募集期間：2022/5/1～2023/3/31
助成申請額：872,320円
助成金額：358,645円(2022/11/30現在)

私たちは、孤育てさせず、親子が遊びを通し愛着関係を深め、育ちあいを見守る、親育ち子育て支援の団体です。子育てサロンすくすくは親子の遊び場を軸に、地域の母親の要望に応じていく形で様々に活動を広げてきました。

すくすくの特徴は、親育ち支援を重視している事です。核家族の下で育った世代は乳児と接する体験を持たないまま親になり、さらに今は人との関わりが希薄になっている時代。情報化社会の中で様々な子育ての情報が飛び交い不安や戸惑いを抱え込む親が多い中、親になる過程での支援が求められていると考えています。

サロンでは親同士の交流を図りながらも、親子の愛着関係を深めるように働きかけをし、子ども達の関わりあいから成長する姿・育つ過程などを親に伝え、親達と共に子ども達の成長を見守る事に配慮してきました。

実際に利用されたママから「一緒に居るので、いつでも自然に「断乳はどうするの?」「オムツはいつ取るの?」等、育児上の悩み事がすぐ聞けた」という声もいただいています。

これまでボランティア精神で走り続けてきましたが、世代交代を視野に入れる時期になり、活動を継続するためには安定した財政基盤が必要だと考えてきました。コロナ禍では現状維持に必死でこれ以上は難しいと見送ってきましたが、活動継続のための第一歩として今回お金をまわそう基金で寄付を募集することにいたしました。私たちの想いに応じてご支援くださった皆様に心から感謝致します。

いじめに悩む子どもからのSOSに 24時間 365日即応する相談窓口



地域活性化いじめ撲滅実行委員会は、佐賀県を拠点に、①子どものいじめ相談対応、②子どもの勉強の遅れを取り戻す学習支援、③子どもの活力を促す体験学習を実施しています。

お金をまわそう基金を通じて皆様からご支援をいただいている「子どものいじめ相談対応」では、子どもたちからの電話相談・駆けつけ支援を実施しています。

ひとりで悩みを抱える児童・生徒や、いじめを止めるための一歩を踏み出せずにいる子どもたちのために、いじめ相談ハガキを作成し、佐賀県内すべての小中学校に配布しています。このハガキを見て電話をかけてくる子どもたちのために、24時間365日即応できる体制を整え、たとえ深夜でもすぐに子どものもとに駆け付け、一分でも一秒でも早いいじめの解決と心のケアを届ける活動を続けています。

9月の新学期が始まってから電話が急増し、深刻な相談内容も増えていることから、継続的な伴走支援も例年の2倍のペースで対応しています。

相談電話から2カ月ほどで学校に戻ったお子さん、学校と教育委員会と親御さんの話し合いが進んで復学が視野に入ったお子さんが始めており、緊急支援でタイミングを逸さないことが非常に重要であることが分かります。

皆様のご支援により、電話相談に対する支援がスムーズに実施できています。心から御礼申し上げます。

引き続き、子どもたちの心と命を守る活動にお力添えをよろしく願いいたします。



一般社団法人 地域活性化いじめ撲滅実行委員会

寄付募集期間：2022/9/1～2023/3/31
助成申請額：221,120円
助成金額：94,920円(2022/11/30現在)

中高生にたくさんの“ロールモデル” との出会いを届けたい



特定非営利活動法人 アスリード

寄付募集期間：2022/9/1～2023/3/31

助成申請額：800,000円

助成金額：197,420円(2022/11/30現在)

2019年に内閣府が発表した「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」から51.8%の若者が「自分は役に立たないと強く感じる」と自己肯定感の低さが明らかになりました。「やりたいことがない」と安易に就職先を選び、数年経って感じた“本当にやりたかったことはなんだろう”という虚無感。もっと早くから将来を真剣に考えておくべきだったという反省と後悔が活動の原点です。

今回のプロジェクト（2022年12月現在）で、のべ19校3,100名の中高生と、のべ89社100名以上の社会人にご協力いただき“みらいteacher”を開催することができました。ご支援くださった皆様、本当にありがとうございました。10代の若者からは「辛いことの先に楽が待っているという言葉が心に響きました」、「働く＝辛いことだと親を見て感じていましたが、話を聞いて社会に出ることが楽しみになりました！」とたくさんの声が届いています。

この活動は日本の未来において重要な投資ではありますが、緊急性を伴うものではないため、予算確保が非常に難しく持ち出しが続いておりました。コロナ禍で誰もが心も経済的にも苦しい中、「それでも若者の未来のために」と心を寄せてくださった皆様の気持ちが大変有難く活動の励みとなっております。改めて心より感謝を申し上げます。皆様から受けた恩は次代の若者へと恩送りしてまいりますので、厳しい目でアスリードを見ていただき、温かい目で若者たちを見守っていただけますと幸いです。

拠点の無い地域に支援の輪を広げる 《出張子ども食堂》



一般社団法人 天理文化の会

寄付募集期間：2022/9/1～2023/3/31

助成申請額：215,000円

助成金額：135,420円(2022/11/30現在)



私たちは、天理市を拠点に子ども食堂や出張子ども食堂などを行うことでセーフティーネットの拡充をし、行政の手の届かないところまで支援を届ける活動を行っています。

地域の様々な家庭を支援してきましたが、その中でもいかに困窮しきる前の段階で支援の手を伸ばせるかが課題だと考えています。本当に家庭が困窮してしまうと、うつ病や家庭崩壊など、私たち以外の緊急支援も必要な事態に陥るケースが多々あります。そうなる前に支援するために子ども食堂を入口としたセーフティーネットを広げています。

活動を開始して、出張子ども食堂の出先の公民館でびっくりされました。「子ども食堂ってこんなに人が来るんですね」という公民館の方の反応です。地元民生委員の方も来られて、「うちの地区にはこういう活動はないから、噂には聞いていたけど初めてみました。いい活動ですね」という声をいただきました。

食数は子どもだけで上限を超えてしまうので、一緒にきた大人に渡すことはできません。毎月の平均来場者数は70人ほどです。受付開始40分前にはもう子どもたちが並び始めています。12月も開始10分でお弁当は無くなってしまいました。必要としてくれている声を真摯にうけとめ、継続できるように活動を続けていきたいと思えます。

皆様の温かいご支援ありがとうございます。支援の輪は継続が命だと感じています。支援が長く続けられるように努めて参りますので、今後ともよろしく願いいたします。

フリースペースで不登校の子どもたちに学びの機会を



寄付募集期間：2022/9/1～2023/3/31
 助成申請額：600,000円
 助成金額：76,420円(2022/11/30現在)

私たちは、ゲーム依存や不登校等、子どもを取り巻く生活問題の解決を目指す団体です。スマートフォンやオンラインゲームがやめられない子どもの相談をしていくなかで、その背景にある不登校や引きこもり等の支援活動を行うようになりました。

当団体が実施している事業は、フリースペースの開設と運営です。主に不登校の子どもたちに学びの機会を提供することで、子どもたちが安心できる場所であると同時に様々な体験を通じて社会との繋がりを持てるような居場所を作りたいという思いから始めました。施設名は「Gumi(仮称)」としていましたが、今はそれぞれの子どもが持つ「色(カラー)」を大切にできる場所という意味を込めて「Colors」と名付けています。今回の寄附金は、デジタル機器を用いた学習プログラム活動に充てさせていただきます。施設に来る子どもはパソコンに興味津々です。タイピングやプログラミング、オンライン学習、動画編集等、様々な活動に挑戦したり、eスポーツの文化に触れて仲間と一緒に目標に向かって活動する体験も提供していきます。

スタートまもない事業にもかかわらず、たくさんの寄付をいただきありがとうございます。利用を重ねるにつれて笑顔が増えたり、より意欲的に活動に取り組む子ども達の様子をみて、この場所を創ってよかったなと感じています。

「あなたは、あなたのままでいい」 森の中の小さな学び舎



特定非営利活動法人
ならはらの森なかの学舎

寄付募集期間：2022/9/1～2022/11/30
 助成申請額：360,000円
 助成金額：360,000円

ならはらの森なかの学舎は、2021年に開校した東京都八王子市にある民間のフリースクールです。子どもの権利を守ることを第一とし、生活や経験を通して学ぶこと、人・自然・社会とつながることを大切にしながら、どの子どもありのままの自分であることができる安心で安全な居場所づくりを行っています。

一日をどのように過ごすかは子ども本人が決めます。英語、体操、ヨガ、レクリエーション、科学実験、哲学対話、木工、陶芸、郷土の歴史といった幅広いプログラム、遠足や運動会、お泊まり会のイベントなども、参加するかどうかはすべて子ども自身が判断します。

子どもが日々の学びや生活を主体的に選択し、生き生きと過ごすようになったことで、保護者の多くが一様に「子どもも親も元気になった」と言います。

2022年度は、32組の見学、43名の体験(いずれも延べ)、22名の新規入会があり、現在42名の子どもが登録しています。活動開始時の8倍以上の子どもを受け入れるため、学舎のロフトへのエアコン設置と多様なプログラムを担当する講師陣の人員費の捻出が喫緊の課題でしたが、皆さまからのご寄付のおかげで早々に解決することができました。ご支援下さった皆さまの真心に心より深く感謝申し上げます。

これからも子どもたちの人権、ひいてはあらゆる人々の人権が守られる社会に近づけていけるよう、様々な方たちと手を取り合って力を尽くして参ります。どうか今後ともよろしくご願ひ致します。

地球環境を学べるカードゲームの 北杜市版を作りたい



NPO法人 **SoELa** 特定非営利活動法人
Social Entertainment Laboratory **SoELa**



寄付募集期間：2022/9/1～2023/3/31
助成申請額：193,000円
助成金額：80,420円(2022/11/30現在)

私たちは、カードゲーム等のエンターテインメントの手法で社会問題を啓発している団体です。現在、対戦型トレーディングカードの仕組みに地球環境コンテンツを搭載したカードゲーム教材「マイアース」事業を展開しています。この生態系と地球温暖化が地球の未来を賭けて戦うトレカですが、生態系を地域の生き物で構成するマイアース「地域版」の制作も行なっています。

お金をまわそう基金に助成申請をした山梨県北杜市用のパッケージでは、地元の高校生が南アルプスに生息する生き物でカードゲームを制作し、その後地域の子供達に体験会やワークショップを実施して地球環境に詳しく、自ら行動を起こす子供達を育成するプロジェクトです。マイアースは慶應大学の学生が2008年に考案した世界で唯一のトレカを活用した環境教材です。これを、世界に向けて展開していきたいと考えています。

皆さまにはあたたかいご支援をいただき、誠にありがとうございます。地球の未来を託す子供達が正確な地球環境の知識を獲得し、将来主体的に地球環境を保全する若者が多く輩出されるよう、北杜市の子ども（小学校3年生以上）や、NPO法人難病ネットワークと連携して白州の難病家族宿泊施設「あおぞら共和国」の子どもを対象に体験会などを開催してまいります。今後とも、よろしく願いいたします。

山本能楽堂は世界無形遺産である「能」の普及と次代への継承を行う団体です。

ルーマニアのシビウ国際演劇祭はヨーロッパ最大規模の演劇祭として知られ、毎年世界の様々な国と地域から70カ国以上の参加があり、文化による国際交流が行われています。

2021年のコロナ禍においても5つの大陸から30カ国以上の参加を得て演劇祭は開催されました。

2015年から演劇祭に参加している山本能楽堂も招へいされ、新作能「オルフェウス」を日本からライブ配信しました。画像には字幕をつけ、演劇祭期間中の約10日間アーカイブ配信を行いました。これにより日本の伝統芸能「能」の魅力を世界の人々に伝え、日本文化の素晴らしさをアピールするとともに、国際相互理解を深め、世界をつなげる架け橋のひとつとなることができました。

このシビウ国際演劇祭は、「withコロナ時代」の新たな形を築き上げた歴史的な年になりましたが、山本能楽堂もこの演劇祭に参加できたことで、世界中の劇団やアーティスト、観客も含めたすべての人々と、開催への希望と情熱を共有することができ、今後芸術活動を行う上で、大きな気概を持つことができました。

皆さまのご支援により、往来が不自由なコロナ禍においても、海外の方々と交流ができ、未来への希望を共有することで、文化芸術は不要不急ではなく社会にとって必要不可欠なものであることを再認識しました。ご支援いただき深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

新作能「オルフェウス」の配信で シビウ国際演劇祭に参加



公益財団法人
山本能楽堂



寄付募集期間：2021/8/1～2022/5/31
助成申請額：283,454円
助成金額：53,890円

中国伝統芸能「京劇」を福祉施設 で慰問公演



一般財団法人 日本京劇振興協会



寄付募集期間：2021/8/1~2022/3/31
助成申請額：690,000円
助成金額：248,683円



寄付募集期間：2022/5/1~2023/3/31
助成申請額：320,000円
助成金額：67,010円(2022/11/30現在)

私たちウルシネクストは、環境負荷が低くサステナブルな天然素材「漆」を、今の時代だからこそ見直し、日本が誇る「漆」と漆文化を次の世代に伝えていきたいという想いから、「漆を増やす・活かす・使う・伝える」活動を行っています。日本文化を象徴する「漆」ですが、40年以上もの間、自給率は1~5%程度という低さ。大半は中国からの輸入に頼っていますが、その中国も経済発展に伴う担い手不足などによって輸入量は年々減少し、昨年は1980年比で94%減の22トンまで落ち込みました。一言で言うと「存続の危機」です。漆文化を継承し発展させていくためには、輸入に依存せず、国産漆を増やすほかありません。私たちは4年前にまず「漆を増やす」活動を始めました。想いを共有し、ウルシの植栽に前向きな地域などにウルシの苗木を提供し、「漆の森づくり」に着手したのです。2020年にお金をまわそう基金の助成先団体に選ばれたことが活動の弾みとなり、お陰様で最初の2期で約2,000本、昨期は730本の苗木を提供することができました。ご寄付いただきました皆さまからのご支援に改めて感謝申し上げます。4期目となる2023年は、昨年新たに「漆の森づくり」の拠点となった神奈川県秦野市、福島県会津若松市などとさらに連携を深め、苗木提供や植樹の支援を継続していきます。目指すのは、国産漆の復興と漆を通じた地域振興への貢献です。皆様からの引き続きのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本京劇振興協会は中国伝統芸能「京劇」の日本での普及活動を行う団体です。京劇公演やワークショップといった文化事業を通じて、京劇の楽しさ・奥深さを伝えています。また、在日の文化芸術団体として日本での活動を将来に亘って継続していくため、「誰もが等しく文化芸術を楽しむ機会の創出」に向けた社会貢献活動も積極的に実施しています。その一つは養護施設・老人ホームでの慰問公演であり、もう一つは青少年が外国伝統文化に触れる機会の創出です。COVID-19感染拡大が続く状況下での慰問公演は制限が多く、開催は困難を極めました。そこで2022年3月、重度知的障害者を対象とする生活介護事業所「千歳台福祉園」への京劇オンライン公演を実施しました。オンライン配信は当団体で初の試みであり、施設利用者に楽しんでいただけるか不安でしたが、皆さまが興味深そうに鑑賞されていたことをお聞きして、京劇が持つ「オーバーなリアクションで観客に情報が伝わるノンバーバル演劇」という特徴が有効に働く上演方法であることがわかりました。さらに小学生も含めた若い京劇俳優たちが出演することにより青少年の文化振興にも貢献ができました。このように活動を続けることができますのは皆さまのご支援のおかげです。私どもの事業へのご理解とご支援、誠にありがとうございます。在日外国文化芸術団体として、更にご期待に応えるよう尽力して参ります。引き続きよろしくお願い致します。

漆と漆文化を次世代につなげたい 地域の人と育てる漆の森づくり



URUSHI 特定非営利活動法人
NEXT ウルシネクスト



寄付募集期間：2021/12/1~2022/11/30
助成申請額：1,980,000円
助成金額：722,476円

偶然の出会いがキャリアを創る 宮城県の中高生に大人との対話を



特定非営利活動法人 ハーベスト



寄付募集期間：2021/5/1～2022/4/30
助成申請額：1,500,000円
助成金額：299,810円



寄付募集期間：2022/5/1～2023/4/30
助成申請額：1,250,000円
助成金額：393,766円(2022/11/30現在)

特定非営利活動法人ソマリッサは、「ひとりで抱えずに優し
いつながりがあふれる社会をつくる」をビジョンに掲げ、群
馬県で高齢者の孤立・孤独を笑顔に変えるための事業を行な
っています。具体的には、高齢者見守り・コーディネートサ
ービスTayory、地域健康サロン事業、多世代の居場所・交流
事業、地域・企業向け研修事業などを実施しています。

お金をまわそう基金の助成事業では、長期コロナの社会的孤
立によって生じたコロナフレイルの予防・改善を行うことを
目的として、様々な医療・福祉専門職の法人スタッフと連携し、
健康講座、ヨガ講座、整体講座、栄養講座などを行います。

「コロナで外に出なくなると体が弱ってきた…」 「人に会うこ
とが減って忘れっぽくなってきた…」 周り的高齢者の方から
そんな声を良く聞くようになりました。配偶者の死や社会的
な役割の喪失、免許の返納、体力の衰えなど、コロナのほか
にも高齢者が孤立するタイミングはいくつもあります。

群馬県内には、地域の人間関係の希薄化等により、孤立・孤
独状態の高齢者の方々は約38,000人います。私たちは、繋がり
を持ちたいのに持てない高齢者が抱える孤独感や寂しさとい
う課題を解決し、生き活きと自分の役割を持ち活動的な状
態になるよう、高齢者一人ひとりの想いや課題を丁寧に汲み
取り、社会との接点を自然な形でつくることでサポートして
いきます。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

「偶然の出会いがキャリアを創る」・・・人の自立とは、出
会う人との対話を通じて受け取る様々なメッセージの力によ
って、自身の中にある「ありたい姿」「見たい世界」を呼び
起こすことだと考えています。そして、それを知って初めて
若者には「生きる」手ごたえをしっかりと掴みながら自らの
人生に踏み出していく力が宿るものだと思います。「様々な
出会いと対話を通じて大人も若者も一緒に成長していく」。
私たちNPO法人ハーベストは、宮城県内の中学・高校生の学
校生活の中にそんな対話の場を創り続けてきています。
今年度も、対面およびオンラインを通じて沢山の対話の場づ
くりを進めています。街でも郊外の学校でもどこであって
も、様々な経歴で自分の道をしっかりと歩んでいる魅力的な
社会人と出会い、言葉を交わし、そこで湧き上がる様々な想
いや希望を言葉にして実際の世界に出してみる。

その言葉は、自分自身はもちろんのこと、周りの人にも響き
ながらそれぞれの人生の歩みを進める力になっていきます。
実際に、語り手の大人からも若者との対話を通じて学ぶこと
が沢山あるという声も寄せられています。

おかげ様で、2022年中は15校の中学校・高校において、こ
うした対話の場を提供することができました。これまで多くの
皆様からのご支援をいただき、スタッフ一同より感謝申し
上げます。今後とも何卒よろしくご願ひ申し上げます。

高齢者の孤立を笑顔に変える 地域健康サロン



特定非営利活動法人 ソマリッサ



寄付募集期間：2022/5/1～2023/3/31
助成申請額：360,000円
助成金額：38,646円(2022/11/30現在)

引退競争馬と地域をつなぐ 地域の子どもたちに馬とふれあう機会を



特定非営利活動法人 アヴニールファーム



寄付募集期間：2022/5/1～2022/12/31
助成申請額：616,400円
助成金額：90,646円(2022/11/30現在)

私たちは、引退競走馬の殺処分減少を目指し、馬が余生を堪能できる牧場運営を行う団体です。

競走馬の多くは活躍することなく現役を引退し、肉食獣のえさなどに加工され寿命を全うすること無く処分されます。当法人はそういった馬達を少しでも受入れ、子ども達とのふれあい体験イベントなどで第二の人生を送ることができるようトレーニングを行います。

馬に乗る前と後の子ども達の表情は全くといっていいほど違い、自信に満ちた表情の子どももいれば、馬を触りぬくもりを感じながら、感謝の言葉を口にする子ども達もいます。動物にふれあいぬくもりを感じ、馬達の表情を間近で感じる事は、成長する過程で非常に大切な時間だと感じます。

今回の助成では、コロナ感染拡大や悪天候により中止になった回もありますが、蹄鉄工作や厩務員体験等の題材で計4回のイベントを開催しました。この4回のイベントで、43名の子ども達を招待し、馬とのふれあいや乗馬の機会を創出できたことは、非常に意義のある企画であったと考えます。

この度は、当法人へ御支援いただき、誠にありがとうございました。いろいろな物の値段が高騰し、多くの方が決して余裕がない中で、当法人を選んで御支援いただき誠に感謝申し上げます。これからも、沢山の子ども達に馬の素晴らしさ、命の尊さを伝えてまいりますので、応援の程、宜しくお願いいたします。

公的サービスの隙間を埋める 当たり前の生活を送るための支援



特定非営利活動法人 釧路・根室権利擁護支援センター



寄付募集期間：2022/5/1～2023/3/31
助成申請額：900,000円
助成金額：35,196円(2022/11/30現在)

私たちは、根室・釧路管内を中心に、弁護士や社会福祉士等と協働して権利擁護（当たり前の生活を送るための）支援を必要とする人々をサポートし、多様性のある社会が実現するよう取組みを進める団体です。

判断能力が十分でない方に向けた制度の多くは、家族による支援がある前提で設計されています。そのため、一人暮らしの方にとっては制度で対応できる範囲外のことが多く、結果的に住み慣れた土地で一人暮らしをしたいという思いを諦めざるを得ない方も多くいます。特にコロナ禍においては人との接触が制限され、家族も頻繁に行き来することが難しくなりました。このような状況において、家族から受けていた支援なしでは、当たり前の生活を送ることすら難しくなります。

そこで私たちは、根室・釧路管内にいる、病気や障害などにより判断能力が十分ではない人が安心して暮らすための、預金の引出し、各種支払い、買物の代行支援など、公的なサービスのすき間を埋めるきめ細かな支援を行っています。

皆様のご支援により、北海道の釧路・根室地域で支援を必要としている方の生活を支えることができています。本当にありがとうございました。コロナ禍において訪問活動が思うようにできず難しい状況が続いておりますが、これからも困りごとを抱える人々のお手伝いをしていきます。引き続き、私たちの活動へのご理解とご協力を何卒よろしくお願いたします。

みんなで歌って誤嚥性肺炎予防 健康寿命を延ばす高齢者健康づくり講座



特定非営利活動法人
ぴくにくく



寄付募集期間：2022/9/1～2023/3/31

助成申請額：600,000円

助成金額：21,010円(2022/11/30現在)

私たちはスポーツ・学校・企業の安全な環境づくりを提唱するために、AED・熱中症・脳震盪などの知識をもったアスリートが講師となり、AED講習を中心に、いのちの大切さや、いざという時の対処法を伝えています。

お金をまわそう基金の事業では、「いのちの教室」の授業を通して社会課題である4.7%というAEDの使用率を上げること、アスリートを講師として起用することで、スポーツの普及・安全なスポーツ環境の構築・セカンドキャリアの支援にも繋がっています。今期は、昨年に引き続きコロナ禍で、予定していた事業をすべて実施することができませんでした。中止になった地域については、翌年度に持ち越し等の調整を開催元に交渉しております。

【開催実績】

- 2022/1/23 東京都杉並区 荻窪体育館アリーナ
講師：飯沼誠司（ライフセービング）25名
- 2022/3/13 愛知県春日井市 朝宮公園
講師：巻誠一郎（サッカー）60名
- 2022/7/10 富山県富山市 アイザックススポーツジム
講師：高山樹里（ソフトボール）25名
- 2022/9/2 北海道標津町 標津中学校
講師：岡田麻央（バスケットボール）44名

お金をまわそう基金を通して寄せられたみなさまのご寄付は、主に印刷費・交通費・宿泊費として充てさせていただいております。改めましてみなさまからのご支援に感謝申し上げます。



私たちは地域の高齢者のフレイル予防を目的として【高齢者健康づくり講座】を開催しています。

歌ってのどの筋肉を鍛えることが、高齢者が死に至る場合もある誤嚥性肺炎予防に役立つと知り、高齢者健康づくり講座では毎回歌を歌っています。講座内では軽い体操なども行っており、定期的に講座を開催することで高齢者の孤独や体力低下の問題解決に取り組んでいます。

また、フレイル予防とは、身体が健康な状態を継続させることはもちろん、心も健康でいるべきだと考えています。心が健康でいるために、高齢者が狙われる詐欺犯罪への注意喚起や、現代社会において問題視されている高齢者ドライバーの事故を未然に防ぐための教室も開催しています。

これらの活動が口コミで広がり、講座の参加者が増えてきました。多くの方にご参加頂ける意義ある講座にするため、新たなチャレンジと試行錯誤を繰り返しながらの活動ですが、年間30回の活動を計画しています。講座に参加すれば仲間との出会いもあり、楽しい時間を過ごせることをより多くの地域の高齢者に知って頂けるように、広く情報発信をしようと思います。

高齢者の健康づくりや交通安全の呼びかけは継続的に行うことで参加者の意識が保つことが出来ると考えています。これからも地域の高齢者の健康づくりと交通安全のためのサポートを行いたいと思いますので、継続的なご支援をお願い申し上げます。

AEDが正しく使われる社会を目指す アスリートが伝える「いのちの教室」



一般社団法人
ATHLETE SAVE JAPAN



寄付募集期間：2021/12/1～2022/12/31

助成申請額：500,000円

助成金額：121,937円(2022/11/30現在)

パラスポーツは障がい者も健常者も みんなで楽しめる



D-SHIPS32
特定非営利活動法人 ディーシップスミニ

特定非営利活動法人 **D-SHIPS32**



寄付募集期間：2022/5/1～2023/3/31

助成申請額：1,200,900円

助成金額：234,837円(2022/11/30現在)

私たちは、共生社会を目指し、パラスポーツを通して身体障がい者と健常者が時間を共有する場を創り、互いの交流によって幸せ・楽しみを得られるよう、人々が挑戦する精神の育成を目指している団体です。

当団体が主催するイベントは、学生や企業・自治体のチーム、地元のプロアスリート、パラアスリートも参加するインクルーシブな大会です。大会中もお互いのプレーに一喜一憂し、称えあい、支え合います。

参加者からは、「障がい者スポーツに興味があったので、こういうイベントに参加できていい経験になった」「運動が苦手ですが、パラスポーツは既存ルールにこだわらなく、変えることができるので、みんなが楽しめる」等の声をいただきました。また、地元の団体・企業、個人が一体となり、審判講習の実施等の運営にとどまらず、選手としても参加して大会を楽しみ盛り上げてくれました。

このたびは皆さまのご支援により、全国各地へパラスポーツの日常化のためのパラスポーツ道具を届けることができました。東京、神奈川、長野、大阪、岡山、長崎と多くの会場でパラスポーツに触れてもらいました。

日本では、今でも車いすでは体育館を貸してくれないところや障がい者お断りの場所がたくさんありますが、団体メンバーだけではなく、支援者、参加者と関わるすべての人が声をあげるにより、課題解決につながります。引き続きご支援のほど、宜しくお願いします。



お金をまわそう基金×休眠預金活用事業

平成28年12月9日、「民間公益活動を促進するための休眠預金等^{※1}に係る資金の活用に関する法律」が交付され、平成30年1月1日施行されました。お金をまわそう基金は、同法に定める指定活用団体「一般財団法人日本民間公益活動連携機構」より、2019年度資金分配団体^{※2}として採択されました。

当財団では実行団体として3団体を選定し、「医療的ケア児とその家族の夢を寄付で応援/マッチング寄付プログラム」(3か年)を展開しています。

本プログラムの特徴



マッチング寄付

みなさまからの寄付に休眠預金等に係る資金から寄付額の3倍を加えて助成をします。



休眠預金等活用法

当基金は、休眠預金等活用法に基づく資金分配団体です。



SDGs

持続可能な開発目標 (SDGs)
「3:すべての人に健康と福祉を」
「10:人や国の不平等を無くそう」
に関連する事業です。

▼詳細はコチラ



※1 「休眠預金等」とは、10年以上入出金等の取引がない預金等のことを指します。預金が「休眠預金等」となった場合、預金保険機構に移管され、最終的に「民間公益活動」の促進に活用される資金のことです。この制度により、社会の諸課題の解決に結びつく事業の創出と普及が加速するとともに、民間公益活動の担い手およびその支援の担い手の育成、効果的・効率的な成果評価の実施や情報公開の仕組み等の環境整備が期待できます。

※2 「資金分配団体」とは、民間公益活動を行う団体（実行団体）に対して助成、貸付け又は出資を行う団体です。

子ども分野

私たちは、医療的ケア児とその家族の旅行や映画上映会を実施しています。

一般的には気軽なお出かけや家族旅行も、医療的ケア児を含む、重度の障害をお持ちの方とそのご家族にとっては、ハードルが高く経験することが困難です。しかし、親子や兄弟姉妹、友人と一緒に過ごす時間、日常から少し離れて特別な体験や経験を積むことは家族の絆を深め、心と身体の成長に繋がります。

私たちは、日常の延長にある気軽なお出かけ先の一つとして、インクルシネマ（インクルーシブな環境下での映画の貸し切り上映）を毎月1回実施しています。家族旅行としては、沖縄の他、より行きやすいディズニーランドやUSJツアーも実施し、新規の参加者の方やきょうだい児の支援にも取り組みはじめています。

また、地域で生きる、人と人、人と地域を繋いでいく為に、オープンチャットやオンラインサロン、SNSも活用し、様々な角度からより多くの方に参加してもらう方法を練っております。このようなLinoの事業を継続し、新たな体制を整えられるのは、ひとえに応援しご支援くださる皆さまのおかげと心から感謝しております。

諦めていた旅行や友人・家族との特別な場を、本事業を通して提供できたことは、ご家族皆さまの絆と成長を生み出す大切な機会となり、それが次のチャレンジに向かう前向きな思いと勇気を育てていると、ご家族から頂いた感想から実感しています。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

映画も旅行もみんなでチャレンジ 医ケア児とその家族の「できる」を叶える



特定非営利活動法人
Lino

総事業期間：2020/6/1～2023/3/31

総助成申請総額：9,808,720円

助成金額：1年目2,976,120円

2年目3,486,300円

3年目3,142,140円

離島の医ケア児と家族の東京旅行 地域の人と作る真の「共生社会」



公益社団法人
難病の子どもとその家族へ夢を

総事業期間：2020/6/1～2023/3/31

総助成申請総額：11,141,950円

助成金額：1年目4,266,950円

2年目2,151,400円

3年目0円(2022/11/30現在)

私たちは、難病と闘っているお子さんとそのご家族に家族旅行をプレゼントし、家族での貴重な思い出づくり、夢のような時間を過ごすお手伝いをしています。

休眠預金事業においては、新たに医療的ケアが必要な難病児とそのご家族が励まし合い交流するための場づくりを全国各地で実施する計画を立てていました。ところが、事業開始と同時に新型コロナウイルスの流行が始まり、難病児とそのご家族は健康上細心の注意を払う必要があるため、安全を最優先し、予定していた事業は当面の間休止といたしました。

その後、団体とつながりのある難病児のご家族へのヒアリングを通して代替事業を検討し、ご自宅で楽しめる工作キットのプレゼントやオンラインカフェを開催し、ご家族が交流できる場を提供しました。

しかし、団体内部で今後の在り方を話し合っていく中で、「旅行支援をとおしてご家族の貴重な思い出づくりをお手伝いする」という本来の理念に立ち返り事業を運営していく必要があるのではという結論に達しました。そのため、2023年3月までの予定だった休眠事業を2022年4月に繰り上げて終了し、旅行を実施する安全性が確保できるまでの間は事業実施体制の基盤を固めることに注力いたしました。

お陰様で、2022年10月には旅行事業を再開することができ、その後も緊急のご相談を含め、受け入れ対応をさせていただいております。

皆さまにはあたたかいご支援を頂き、本当にありがとうございました。今後とも、私たちの活動を見守っていただけますと幸いです。

私たちは、真の豊かな「共生社会」実現の為に、全国に30万人とも言われる難病を患う子どもとその家族の生きざまを通して、社会の様々な人たちが、いのちや家族、そしてしあわせを考えるきっかけを作り、外出が困難な医療的ケア児、難病児とその家族全員の旅行や、社会の人たちと交流するイベント等を実施しています。

今年度もコロナ禍において、沖縄の離島から家族をご招待する活動は、中止や延期、直前でのキャンセルなどにも見舞われ悔しい想いもたくさんしましたが、待ちに待った旅行も実施することができました。活動をより楽しくする為に、待っている間にオンラインでの活動を実施したり、ビデオメッセージの交換をしたりすることで、会った時の喜びが更に大きくなり、より良いコミュニケーションを図ることが叶いました。医療的ケアに追われていながらも、前向きにポジティブに生きている家族の強い想いや生き様に、私たちが勇気をもらう場面も多く、活動に関わって下さった地域の皆様や協力企業の皆様にとっても、改めて真の「共生社会」の意義と機会の創出について深く考えるきっかけとなりました。

これからも皆さまの温かいご支援を胸に、どうやって社会の中で彼らと接点を作り、ともに生きていくことの喜びを感じ、新しく生まれる視座を広げていくことができるのか、活動を推進して参りたいと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

難病児とそのご家族の旅行事業 の再開に向けて、、、



公益社団法人
ア・ドリームア・デイ IN TOKYO

総事業期間：2020/6/1～2022/4/31

総助成申請総額：3,683,000円

助成金額：1年目2,270,000円

2年目0円

お金をまわそう基金 活動の紹介



助成先団体の活動報告

助成先団体の活動をより具体的に知っていただけるよう、当財団のスタッフが活動の現場取材し、現場の様子をウェブサイトにて公開しています。皆さまからのご寄付は、どのような方々の体験や喜びにつながっているのでしょうか？色とりどりの活動を、是非ご覧いただくと幸いです。



活動報告の
詳細はコチラ



NPO法人ネモ ちば不登校・ひきこもりネットワーク

子どもたちが望むものを選び取れる
「ねもキャン」



NPO法人秋川流域生活支援ネットワーク

一番の評価は「子どもたちの笑顔」
～わいわいくらぶの子どもたち～



NPO法人ウルシネクスト

ウルシネクストの「漆の森づくり」
～新たな植栽地で見た課題～



NPO法人ハーベスト

「ココロが、起動する」
～ハーベストのキャリアセミナー～



NPO法人Lino

「きょうだい児」の笑顔が広がる旅
～Lino 沖縄海洋リハビリ体験ツアー-2022秋～



NPO法人ならはらの森なかの学舎

みんなと今を生きる場所
～ならはらの森なかの学舎～

TOPIC!!

さわかみマイルで寄付ができます

さわかみグループが考える世の中づくりに、たくさんの人に参加してもらいたい。
そんな想いから生まれたのが「さわかみマイル」です。
さわかみファンドの定期定額購入時や、さわかみグループのボランティアやイベント参加で貯まる「さわかみマイル」を、お金をまわそう基金にご寄付いただけます。

「さわかみマイル」は1マイル=1円。

通常の寄付と同じように団体や分野を指定できます。
たまったマイルを誰かの応援に使う。未来の社会のために使う。
マイルではじめる世の中づくり。新しい「きもちのぜいたく」です。



公益財団法人あいである

「マネークリップ」児童養護施設の
子どもたちの自立を願って



助成先団体とのセミナー

助成先団体の活動や理念を多くの方に知っていただくため、セミナーを実施しています。ご来場のみなさまに安心して楽しんでいただくため、十分な感染予防対策を行いながら開催しています。



セミナー開催報告の
詳細はコチラ

国産漆を未来につなぐウルシネクスト



NPO法人ウルシネクスト
2022年3月22日
当財団2階会議室

日本の漆の現状とウルシネクストの取組みについて代表の柴田さんからお話をうかがった後、漆塗りの箸を使って箸のマナーを学びました。漆を用いた様々な製品の展示もあり、来場者の関心を引きました。



アスリートが『いのち』をつなぐ ～ATHLETE SAVE JAPANの活動について～



一般社団法人ATHLETE SAVE JAPAN
2022年4月27日
当財団2階会議室

代表の飯沼さんから、ASJが行う「いのちの教室」の概要や、救命のためにできるだけ早くAEDを使うことの大切さについてお話いただきました。行動範囲のどこにAEDがあるのか意識することの大切さを実感しました。



フリースクールの子どもの日常展



NPO法人クリエイト
2022年6月24日、25日
タリーズコーヒー高松サンシャイン通り店
ひとの駅さんぽんまつ

高松市と東かがわ市にて、写真や子どもたちの作品を展示するパネル展を通じて、クリエイトの活動を紹介しました。トークセッションでは、学校以外の学びの場の選択肢が地域にあることの大切さについて伝えました。



夏休み科学実験教室

ふしぎな光の世界 スヌーズレン体験&ブラックライト実験



NPO法人スヌーズレンを普及する会
2022年7月30日
当財団2階会議室

小学生の親子を対象に、ブラックライトを用いた科学実験やスヌーズレン、ブラックライトパネルシアター体験を行いました。その後、代表の山根さんから、自身の仕事を活かした社会貢献活動についてお話いただきました。



助成先団体交流会

2022年11月、4回にわたって助成先団体の交流会を実施しました。

活動の好事例や課題を共有していく中で、皆様同士でアドバイスや気づきを出し合い、「他団体の取り組みを知ることができ大変参考になった」などの感想を頂きました。団体によって活動は様々でも、社会を良くしていきたいという思いは皆同じです。「チームお金をまわそう基金」で一丸となつてがんばっていきたいと思います！



決算報告

正味財産増減計算書

(2021年12月1日～2022年11月30日)

(単位：円)

科目	当年度 (第7期)	前年度 (第6期)	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取寄付金	36,933,565	36,789,097	144,468
受取寄付金	0	10,000	△ 10,000
受取寄付金振替額	36,933,565	36,779,097	154,468
受取補助金等	8,231,714	10,297,227	△ 2,065,713
受取補助金等振替額	8,231,714	10,297,227	△ 2,065,713
特定資産運用益	526	499	27
特定資産受取利息振替額	526	499	27
経常収益計	45,165,805	47,086,823	△ 1,921,018
(2) 経常費用			
事業費	40,033,079	41,055,014	△ 1,021,935
(うち支払助成金)	13,997,860	15,944,800	△ 1,946,940
管理費	5,132,726	6,070,756	△ 938,030
経常費用計	45,165,805	47,125,770	△ 1,959,965
評価損益等調整前当期経常増減額	0	△ 38,947	38,947
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	0	△ 38,947	38,947
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	△ 38,947	38,947
一般正味財産期首残高	△ 249,853	△ 210,906	△ 38,947
一般正味財産期末残高	△ 249,853	△ 249,853	0
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	42,886,175	45,553,817	△ 2,667,642
受取民間補助金	13,933,971	13,673,241	260,730
特定資産運用益	526	499	27
特定資産受取利息	526	499	27
一般正味財産への振替額	△ 45,165,805	△ 47,076,823	1,911,018
当期指定正味財産増減額	11,654,867	12,150,734	△ 495,867
指定正味財産期首残高	63,604,881	51,454,147	12,150,734
指定正味財産期末残高	75,259,748	63,604,881	11,654,867
正味財産期末残高	75,009,895	63,355,028	11,654,867

貸借対照表

(2022年11月30日現在)

(単位：円)

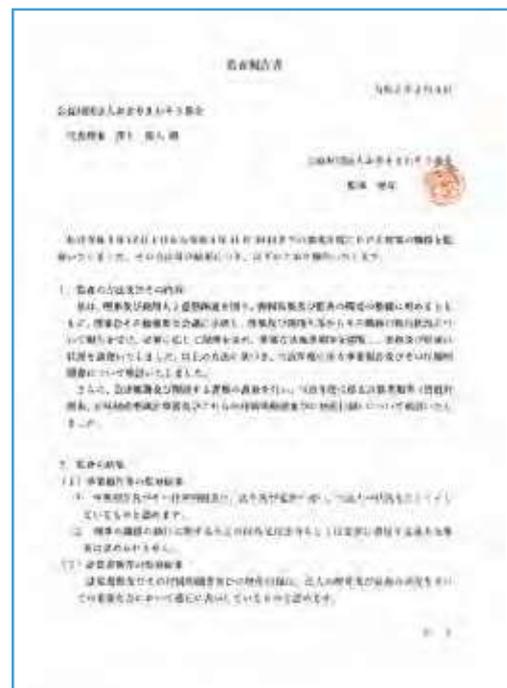
科目	当年度	科目	当年度
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	8,819,447	未払金	8,735,131
流動資産合計	8,819,447	未払費用	22,521
2. 固定資産		預り金	
(1) 特定資産		流動負債合計	
子ども分野指定寄付	12,002,738	9,069,300	
スポーツ分野指定寄付	57,970	2. 固定負債	
文化・伝統技術分野指定寄付	84,109	固定負債合計	
地域社会分野指定寄付	631,069	0	
財団運営費（公益目的事業）	35,084,656	負債合計	
財団運営費（法人管理）	9,860,766	9,069,300	
休眠預金等活用事業	17,198,614	III 正味財産の部	
什器備品	53,826	1. 指定正味財産	
ソフトウェア	286,000	寄付金	
特定資産合計	75,259,748	民間補助金	
(2) その他固定資産		指定正味財産合計	
その他固定資産合計	0	（うち特定資産への充当額）	
固定資産合計	75,259,748	75,259,748	
資産合計		2. 一般正味財産	
84,079,195		△ 249,853	
		正味財産合計	
		75,009,895	
		負債及び正味財産合計	
		84,079,195	

受取寄付金の内訳（第7期）（単位：円）

子ども分野	9,947,275円
スポーツ分野	352,000円
文化・伝統技術分野	212,300円
地域社会分野	1,368,400円
財団運営費	31,006,200円
合計	42,886,175円

※指定正味財産の受取寄付金の内訳です。助成先団体を指定して寄付されたものは、属する分野に合算しています。

※財団運営費はさわかみホールディングスほか、のべ144人の支援者の皆さまからご寄付をいただきました。



スタッフあいさつ



瀬沼 静子

いつもご支援いただきありがとうございます。
2022年度は助成先団体の活動が次々と再開された嬉しい年でした。2023年

度は助成先団体に当財団をもっと役立てていただけるよう、さらに話し合い、検討を重ね、より良い伴走支援を提供したいと考えています。支援者様の温かいお気持ちが社会の片隅の小さな声にも届くよう引き続き励んでまいります。今後もお見守りくださいますようお願い致します。



清水 裕香

2022年度も助成先の団体とお金をまわそう基金にたくさんのご支援をありがとうございました。4月に前任の山下から事務

局長を引き継いで以来、「何とかしたい」という気持ちで活動する方と、その活動を「少しでも助けになれば」と支援する方の優しさの連鎖に元気をいただく毎日です。心優しい社会を次の世代に残すために、第8期も努めてまいりますので、一緒に歩んでいただけたら幸いです。



伊藤 眞作

4月にお金をまわそう基金に加わり、助成先団体の方の活動や、活動にこめられた想いに日々触れています。団体によって活動の種類は

様々ですが、どの団体も社会課題解決のために一生懸命取り組まれています。その活動や想いを多くの方にお伝えし、共感の輪を広げて参りたいと思います。助成先団体と支援者の皆様をおつなぎし、社会課題解決のお手伝いができるように努めて参ります。



田川 道子

昨年度は、一昨年度より100名近く多くの方にご支援を頂きました。既にご寄付頂いた方にも、新しい方にも、当財団が助成する団体の活動の意義が伝わ

るよう、丁寧な情報発信をしていきたいと思っています。また、2019年から始まった休眠預金活用事業が2023年3月で終了しますが、初めてのことばかりで苦労も多かったですが、学んだことを活かしより良い助成事業ができるよう創意工夫していきます。

寄付の取り扱いについて

当財団を通じたご寄付は、税額控除の対象です。

当財団は、内閣府からの税控除の資格を有する公益法人として認定されています。

当財団で受け付けている寄付は以下の4種類です。

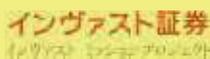
寄付の種類	1 個別団体への指定寄付	寄付を受付中の助成先団体の中から団体を指定して寄付することができます。	
	2 分野への指定寄付	4つの分野（子ども/スポーツ/地域社会/文化・伝統技術）の中から分野を指定して寄付することができます。	
	3 運営費用への寄付	当財団の運営費用を指定して寄付をすることができます。	
	4 一般寄付	上記1～3の用途を指定しないで寄付することができます。	
寄付の使いみち	個別団体への指定寄付	寄付金の100%を、指定された団体へ助成します。寄付額がその事業年度に募集している金額を上回るときは、超過分をその団体が属する分野の助成財源（以下、特定資産といいます）とします。	
	分野への指定寄付	寄付金のうち70%を、その事業年度に指定された分野の団体へ配分して助成します。寄付金のうち30%を特定資産とします。配分する金額がその事業年度に募集している金額を上回るときは、超過分をその分野の特定資産とします。	
	特定資産	特定資産は分野ごとに管理し、運用します。毎年度、事業年度末日時点の評価額を求め、その評価額の10%を翌事業年度のその分野に属する団体へ配分して助成します。	
	運営費用への寄付	当財団の公益事業費または法人管理費に使用します。	
	一般寄付	その事業年度の当財団の公益事業費または法人管理費に使用します。	
寄付の方法	毎月継続寄付	<ul style="list-style-type: none"> ・クレジットカード払い ・口座振替 当財団のウェブサイトより、寄付金額を指定の上お申込み下さい。	当財団のお問合せ先 <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト https://okane-kikin.org/ ・インターネット検索 お金をまわそう基金 ・電話番号 03-6380-9864（平日10時～17時） ・Email info@okane-kikin.org ・所在地 〒102-0082 東京都千代田区一番町29番地2 <small>※現在寄付を受け付けている分野・団体については、当財団ウェブサイトまたはお電話にてお問合せ下さい。 ※寄付の用途を指定しない場合は「一般寄付」として取り扱いいたします。</small>
	つど寄付	<ul style="list-style-type: none"> ・クレジットカード払い ・銀行振込 ・郵便振替 当財団のウェブサイトより、必要事項をご入力の上、お申込み金額を当財団指定口座へお振込み下さい。 当財団のウェブサイトより、必要事項をご入力の上、お申込み金額を当財団指定口座へお振込み下さい。 申込用紙をお送りしますので、メールまたはお電話にて用紙をご請求下さい。	

※寄付金の返金は致しかねます。予めご了承ください。

その他の寄付の方法



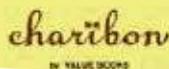
「さわかみマイル」を1マイル=1円で寄付できます。



インヴァスト証券の「社会貢献ポイント」を1ポイント=1円で寄付できます。



Tポイントやクレジットカード決済で寄付できます。



古本等の買い取り代金を寄付することができます。

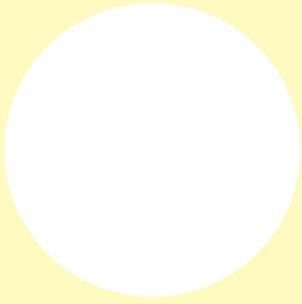


ソフトバンクの利用料金と一緒に寄付することができます。

遺贈

当財団では遺贈のご相談をお受けしています。遺贈で社会貢献をお考えの方はご相談下さい。





公益財団法人
お金をまわそう基金